

平成26年度 学校評価総括表											伊丹市立高等学校		
教育目標		勤労生徒としての自覚を促し、広い教養を身につけるとともに、こころ豊かな人間性を養い、人間尊重の精神を備えた人材を育成する。											
本年度の重点目標		(1) 個に応じた指導のさらなる徹底と、学び続ける姿勢・問題解決能力を育成し、全生徒が誇りを持って卒業していけるよう、学校生活を充実させる。											
		(2) 基本的な生活習慣、道徳観、倫理観等の確立を図るとともに、自尊心を高め、健全な規範意識やマナー意識・社会性を育む。											
		(3) 閉校に向けての準備を進めながら、家庭や地域社会との連携を密にし、地域に愛され記憶に残る学校づくりを推進する。											
重点目標	分掌	取り組み	中間評価	改善点	最終評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	総括
業（1） いける よいう、 学指 校導 生の 活を さら なる 徹底 と、 学 び 続 け る 姿 勢・ 問 題 解 決 能 力 を 育 成 し、 全 生 徒 が 誇 り を 持 っ て 卒	4年	学習活動にしっかり取り組むと共に、自分の進路を考えさせ、その実現を目指す。	学年団と進路指導部との連携により年間を通して計画的に進路の指導を進めることができた。また、意欲的な生徒については課外での補習に取り組んだ。	卒業に向けて、まだ進路が未定の生徒については継続的に職安のジョブサポーターとの連携を取りながら進路指導をしていくつもりである。	年度を通して、個別学習を中心に授業前学習、放課後補習、調査前調査中補習等を行った。職員数は少ないが授業の空き時間を利用して教材を研究し、準備をしていた。	○	最終卒業学年として進路指導、個別指導等で学校を挙げて生徒をサポートされた取り組みは高い評価に値する。	◎	様々な時期に個に応じた指導をされてよかったと思う。意欲のない生徒の様子はどうかであったのか。	○		○	定時制高校4年間を通じて生徒自身が自分の将来に向けて前向きに考え始め、そのために今何が必要かと気づき始めていることは、生徒自身のこれからの生涯学習へのジョイントになればと考える。
	総務	必要に応じて、特別教室等の確保や学習環境の整備に取り組む。	重点目標達成に向けて当初設定したとおりの取り組みを行った。	特別教室等の管理者である阪神昆陽高校との連絡をさらに密にする。	目標実現に向けて、学年や各部との連携を行い、取り組むことが出来た。	○	学習環境の整備、施設設備の利用・使用等の調整・連携に配慮された努力跡が伺える。	◎		○		○	学校生活の充実という目標実現のために、施設・設備の整備や使用について阪神昆陽高校との連絡を行った。今年は阪神昆陽の柔軟な対応を得ることが出来た。
	教務	自主選択授業科目「進路学習」などで小中学校の学習を学び直す機会を設ける。	学習習慣をつけることと、個別の課題に取り組む機会を持てたことは評価できるが、学力の向上に結びつけるには更に時間と工夫が必要である。	学習習慣の定着をはかるためには、生活面での見直しが必要なのが顕著になった。長期休業中の課題を含め、全教科を通じての指導を行う。	前期は進路も見据えて、意欲的な取り組みが見られたが、後期にそれが引き継がれなかった点は残念である。生徒の自発的学習を継続させるためには、更なる工夫と教員間の相互理解が必要であろう。継続的に取り組んだ生徒に成長と意欲が感じられたのは喜ばしいことであった。	○	進路・学習習慣の確立に向けて、定着を図ることは、一朝一夕には成り立たないが、長い将来の生活に生かされていくものと思われる。	○	学習習慣や学力は小中学校が基になっており、短い時間では困難であろうと思う。先生方の指導についできた生徒が伸びたと思う。	○		○	様々な学び直しの機会を設けたことで、生徒たちは自己の学力を意識することができたと思う。自己の力を知ることで、苦手分野をカバーすることを考えるなど、問題解決のための方法を考える時間を持てたことは有意義であった。学力向上をはかるには時間不足だった部分は否めないが、卒業後を見据えた基礎作りの端緒を開けたのではなからと思う。
	生徒指導	授業規律を徹底し安心して学習に取り組める環境作りを推進する。	目標達成へむけて、校内巡回を日々行ったこと、規律を周知したことは評価できる。規律を著しく逸脱する生徒への対応が遅かった。	規律を著しく逸脱する生徒への対応を迅速にする。	校内巡回の担当の先生だけではなく、時間の空いた先生が自主的に取り組んでくれた結果、授業場面での特別指導は年間を通して0件であった。	○	生活、学習指導面での基本分野で、校内職員体制が確立・推進されたことは、喜ばしいことであった。	○	守れなかった規律はどのようなもので、またどのような場面で生徒と密に指導をされていたか。	○		○	教師の減少により、昨年に比べ校内巡回の回数が減ったが、生徒指導部だけではなく全ての教師がさまざまな場面で生徒と密に関わって下さった。その結果、1年間を通して目標を追い続けることができ、目標は概ね達成されたと考える。
	進路指導	勉強会や面接練習会などを企画・実施し、生徒の進路実現をサポートする。	全体で行う面接練習会の他に、個別の状況に応じた面接指導を行うことができた。面接練習に比重を置きすぎ、勉強は個人任せになってしまった。	就職試験の内容に応じてパランスよく指導していく。	大半の生徒が、希望した進路をかなえることができた。未内定の生徒については職業安定所と連携して早期に就職先が決まるように指導している。	○	学校体制で指導に臨まれたことは、何より望ましいこと。今後も卒業生、旧教職員とのつながりの下で、強い絆の維持を続けてほしい。	◎	多くの生徒が希望する進路に進めてよかったと思う。勉強が個人任せになった影響は？	○		○	様々な事情を抱える生徒たちが、目的意識を持って進路活動に熱心に取り組めるよう支援することができた。学力面で問題を抱える生徒も、面接練習の効果が発揮され内定をいただけたのでよかったと思う。未内定者については残り少ない日数ではあるが、最後まで支援を続けていきたい。
	保健厚生	健康な生活が送れるように自主的に健康管理できるように情報提供をする。	4月末に食育について講演会をした。自分自身の食生活を見直す事ができた。	卒業までに食事の大切さと栄養について伝えていきたい。	「地域と学校」で育てた野菜を使って生徒たちと料理を作りみんなで食べることが出来た。野菜で季節を感じ本来の味を知ることが出来た。	◎	心身共に健康な生活を営む基本的な習慣確立に向けて、意義のあるものであったと評価される。	◎		◎		◎	育てた野菜で、料理を作り楽しく食することが出来た。調理の仕方によって味が多様に変わることを身近な食材を通して感じ取れたと思う。4月の講演も含め、食育の機会が持てた。
	情報ビジネス	一人一人の学習状況を的確に把握し、達成感や成就感が得られる教科指導の工夫を図る。	各自の目標を達成するための計画を立案させるところから指導を実施した。	今後も授業だけではなく補習なども積極的にやっていく。	検定の周知を全校生徒対象に行った結果、情報ビジネス科だけではなく、普通科の生徒も希望する検定を取得することができた。取得が叶わなかった生徒も努力することの大切さを身につけさせることができた。	○	この分野の学習・指導の成果は以後の生活にも役立つものであるだけに、その基礎づくりに意義があったと思われる。	◎	努力することが先でよい結果につながるという体験をし、これからもそのような生活態度で過ごすことはとてもよいことだと思う。	◎		◎	せっかく本校に「情報ビジネス科」があるのだから、生徒たちにはその利点を活かしてほしいと思い、資格取得に向けて活動してくれたことは非常にうれしいことであった。資格を取ることが目的ではなく、資格を取るために努力をしたことが大切なことである。卒業後も様々な困難なことめげず努力をすることをやめないでほしいと思う。
	事務室	先生方との連携を密にしながら、学習活動に必要な教具等をすまやかに購入する。	先生方との連携もうまくとれ、必要な教具等を購入することができた。	閉校まで期間は短い、各行事がスムーズに運ばれるよう、先生方との連携をさらに密にしていく。	先生方と連携をとりながら、学習活動に必要な教具等を購入することができた。	○	終わりよければすべてよしの姿勢で、最後まで支援態勢に尽力された足跡は貴重なものであった。	◎		○		○	先生方との連携を密にしながら、閉校に向け、この1年間様々な行事や授業等のサポートをすることができた。

重点目標	分掌	取り組み	中間評価	改善点	最終評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △ ×	総括	
性(2育)くむ。基本的な生活習慣、道徳観、倫理観等の確立を図るとともに、自尊感情を高め、健全な規範意識やマナー意識・社会	4年	基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、社会人としての資質向上を図る。	学校行事・HR活動を通じて集団行動と他者の理解及び人権HRでの人権啓発を促し、社会人としての資質向上を図った。	個々の生徒の生活習慣については、各家庭の経済状況等いろいろな条件が重なり、指導が困難であった。最後は生徒自身の向上心と自己努力が必要ではないだろうか？	道徳観・倫理観については、今年度も人権教育行事の中で人権啓発を促すことができた。基本的な生活習慣や社会性については校外学習等の学校行事の中で育む機会を設けた。	○	生活体験発表の内容を見るにつけても、高校生活、友人、師弟、人権、集団、倫理面等その成長跡が伺える。	◎		○		○		○	純粋な青年期の道徳観・倫理観が世間で言うところの大人の倫理観・価値観とうまく融合し、自尊感情を育み社会性を築いていくことを期待する。	
	総務	各部との連携の元、各種の行事を活用し、重点目標の実現に取り組む。	重点目標達成に向けて企画される学校行事の運営に、学年と連携して取り組んだ。	行事を通して、集団の中で守るべきマナーについてさらに強調していく。	集会における聴く態度や、行事における時間厳守など、基本的なマナーを身につけることが出来たと思う。	○	行事、集会等を通じての自覚、意識面での成長に見るべきものがあったことが察せられる。	○		○		○		○	式・講演会等の行事・集会における、話を聴く態度に成長が見られた。他者への迷惑行為をしないという倫理意識とともに、話者の話から何かを聴き取ろうとする意欲も感じられた。	
	教務	自主選択授業、「総合的な学習の時間」を中心に、生徒の自立を促し、コミュニケーション能力や社会性の育成に努める。	実社会で必要な知識、技能を身に付ける授業展開となり、真面目に取り組んでいる生徒には示唆に富んだものとなった。	「総合的な学習の時間」は週1回のため、継続的な学習が困難な側面が見られた。また、欠席時間の多い生徒への指導が後手に回ることがあったので、一層連絡を密にしたい。	自主選択科目では、学習だけでなく、社会のルールやマナーについても学ぶ時間となり、卒業学年にふさわしい内容となったと思う。「総合的な学習の時間」においても、生徒の自主性を発揮できる時間や社会で役立つ知識・技能の修得に努める時間となり有意義であったと思う。		◎	主体的、自主的授業・学習の発展に貢献する取り組みとして評価される。	◎		◎		◎		○	「総合的な学習の時間」は分野に分かれての学習となったが、コミュニケーションの必要性や相互理解の大切さなどを学ぶ機会となり、生徒の社会性を育むとともに、社会で生きる力を培う機会となったと思う。また、自主選択授業では自ら学ぶことの大切さを再認識できたのではないかと思う。
	生徒指導	校門・駐輪場の立ち番、校内巡回を行い、挨拶や社会のルールについて指導する。	重点目標達成に向けて当初設定したとおりの取り組みを行った。行事等で変則的な時間割になる日に立ち番や巡回ができない日があった。	行事等で変則的な時間割になる日も場所を絞って、立ち番や巡回ができるようにする。	全職員の協力をいただき、立ち番・校内巡回の指導を1年間通じて行うことができた。校内での喫煙が疑われる場面があったが取り締まることは難しかった。		○	全職員、学校を挙げての取り組みは、姿勢として貴重なものであった。	◎	指導は困難で注意しても根本的に直させたりやめさせたりすることは難しいと思う。	○		○		○	全職員の協力をいただき、立ち番・校内巡回の指導を1年間通じて行うことができたが、喫煙はイタチごっこになり指導しきれなかった。全職員で取り組んだことは評価したい。
	進路指導	社会で求められる人物像を提示し、ルールやマナー遵守の姿勢を育てる。	普段の学校生活においてもマナーを身につけさせるために繰り返し指導を行った。	3学期に職業安定所の職員と連携して内定者向けのマナー講座を行う。	履歴書記入や面接練習を通して指導をしてきたが、その時だけで定着していない。社会に出たときは必ずかきく行動を取れるように普段から気をつけるように伝えたい。		○	生活指導、生徒指導とタイアップして行われるもので、総決算の意気込みが求められる。	○		○		○		○	きちんとした挨拶やきれいな文字で記入することは、社会人として必要な能力であることを進路指導を通じて伝えてきた。少しずつ定着してきたのではないかと思う。
	保健厚生	生活習慣や健康問題はもちろんのこと、心の問題もカウンセラーと連携して丁寧に対応する。	進路指導部・カウンセラーと情報交換しながら進路について援助することが出来た。	引き続き各部と連携を密接に対応をしていく。	進路で悩む生徒もいたが進路指導部・カウンセラーと連携しながら進路実現に向けて対応することが出来た。		○	全体的に、先生対生徒間の温かい接触・交流が伺え、好感が持たれた。	○		○		○		○	進路で悩む生徒にカウンセリングを受けてもらうことで、進路実現に向かって行くことが出来るよう支援した。
	情報ビジネス	挨拶や言葉遣いなど、ビジネスマナー教育の徹底を図る。	社会人になるにあたっての具体的なマナー指導を行った。	授業だけでなく、日常の言葉遣いについて日頃から指導にあたっていきたい。	学校内で行ったマナー指導が、これから社会に出たときに役立っていくことを期待している。		○	平素からの生徒指導と相俟って、卒業に結びついていくものと思われる。	○		○		○		○	日常の言葉遣いや挨拶など、まだまだ指導が不十分なところもあるが、社会に出て少しでも「あの時いわれたなあ」と感じてもらえたらよいと考えている。
	事務室	個々の生徒に、書類の申請方法や文書類の書き方について指導・助言する。	書類発行の申請から、文書類の書き方について丁寧に説明した。	書類発行を依頼する生徒が少ないため、指導・助言する機会があまりとれなかった。	在校生徒数が少ないため、書類発行手続き等の指導や助言をする機会が少なかったが、丁寧に対応することができた。		○	文書、書類関係の処理・手続き等は基本的事項であるだけに、日常、恒常的に指導をされたことは、貴重なことであった。	◎		○		○		○	日常的に書類発行の方法や書き方等を指導することができた。
	すーるい組にみに対	授業などで生徒の道徳観や正しい人権意識を養うと同時に、学校いじめ防止基本方針に則り、いじめの未然防止と問題の早期発見、適切な対応を行う。	学年・教科担当者・各部署で情報交換を行いながら、いじめの早期発見、未然防止に努めた。	いじめのアンケートを実施したが、今年度も昨年度同様、本校でのいじめはないという結果となった。先生方と生徒の関係の深さがいじめの未然防止につながっていると考える。	各クラスとも少人数で、なおかつ生徒と教師との信頼関係も築かれているため、いじめを未然防止することができた。		◎	平素の、先生と生徒間の人間関係がきわめて良好であることが伺え、結果的に学校全体の温かさにつながっていたと察せられる。	◎	どのようなことが「いじめ」にあたるのか、本人でないとわからないのではと思う。	○		○		○	生徒と教師の関係の深さが、いじめの事前防止につながったと考える。日常的な生徒観察や保護者、関係機関との連携等、生徒指導の基礎がしっかりしていることが重要であると強く感じた。

重点目標	分掌	取り組み	中間評価	改善点	最終評価	◎ △×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △×	学校関係者評価委員による 評価	◎ △×	総括	
くり(3)を推進閉校に向けての準備を進めながら、家庭や地域社会との連携を密にし、地域に愛され記憶に残る学校づくり	4年	毎月一回発行の学年通信による行事等の連絡及び各学期末、審査中における保護者面談を実施し家庭との連携を図る。	今年度も、月一回発行の学年通信が学校と生徒との絆、家庭への情報発信に大変大いに役立ったと思う。	この学年通信については4年間分が1年12ヶ月分学年フォルダに保存されているので、特に若い先生方は次の新しい職場での学級通信等に利用していただければと思います。	家庭との連携については、各学期末におけるクラス担任との保護者面談により、生徒の学習面から生活面まで情報交換をすることができた。また、必要によって、家庭訪問も行い十分な家庭との連携を確保することができた。情報発信については、学年通信の力が大きい。	○	伊丹市立高等学校最後の学年として、1名の留年生も残さない学年経営、ご尽力に敬意を表したい。	◎		○		○	市高の先人達が長い歴史と伝統の中で伊丹市における産業教育や伊丹市民に対するリカレント教育・生涯学習に貢献したことは言うまでもなく大きい。	
	総務	閉校に関する準備を、各部と連携して進める。	事務室、学年と協力して備品の整理、閉校の準備を進めているところである。	重点目標の実現に向けて、さらに閉校の具体的な計画・準備を行う。	閉校に向けての準備を各方面と連携して実施することができた。	○	学校全体の総括的部署としての処理を一所に引き受けられてのご苦労に感謝したい。	○		○		○	閉校準備は、学校全体の作業であり職員全員がよく協力して行われたと思う。総務としては、学年と協力して主に卒業式を、閉校については管理職の指示の下で事務的な準備を行った。	
	教務	「体験活動」および「地域と学校」を通して、地域への貢献と連携を図る。	農作業や清掃活動だけでなく、サマー講座や池尻幼稚園との連携行事など地域の方々とふれあいながら学習する機会が持てた。	清掃活動の継続など、閉校までに地域に貢献できるように取り組みたい。	「地域と学校」の受講生を中心に、地域の方々とのふれあいを深めることができた。生徒にとっては社会に出るためのよい準備となったと思う。	○	様々な形での地域との連携活動に貢献されたことについて敬意を表したい。			○		○	学校規模が縮小するなかで、ウインター講座の実施を断念せざるを得ないなどといったことはあったが、年間を通して、地域の方々と共に学習し、交流するの機会を設けることができたことは有意義であった。	
	生徒指導	校外での迷惑行為(無断駐車・駐輪、蟻集たむろ等)の指導を行う。また、「地域と学校」と連携して清掃活動を行うなど、ボランティア精神を培う。	目標達成へ向けて、活動できたことは評価できるが、清掃活動に関してはもっと多くの生徒が参加できるように呼びかけが少なかったように思える。	清掃活動を従来通り、定期的を実施する。その際、積極的に生徒に呼びかける。	校外での迷惑行為は前年に比べて減少した。「地域と学校」と連携して清掃活動を行う機会を一年間作れたことは評価できる。	○	地域との交流、連携で一時期を画し、発展的に閉校したことを喜ぶたい。	○		○		○	職員数的な制限や苦情がなかったこともあり積極的に校外を見回りすることはできなかった。清掃活動は一年間通じて実施することができた。しかし参加する生徒は毎回限られ、多くの生徒を参加させることができなかったことは残念である。	
	進路指導	進路だよりを毎月発行する。進路や奨学金に関する情報を提供し、生徒の進路実現へのサポートをする。	進路だよりをほぼ毎月発行することができた。進路だよりだけではなく、必要な情報をこまめに周知することができた。	必要なときに必要な情報を発信できるように適宜発行していきたい。	担任を通じてクラス掲示を行ったり、集会の際に通知を行うなど、一つの情報をさまざまな伝え方をすることで周知を徹底できた。	○	全学を挙げて、卒業生の進路保障に尽力されたことを高く評価したい。	◎		○		○	閉校にあたり、卒業後に学校としてのサポートができないという危機感から、早くから家庭や地域、職業安定所などと連携し進路活動を行うことができた。	
	保健厚生	特別な支援を必要とする生徒に適切な支援をするため、関係機関と密接に連携する。	目標達成に向けて支援することが出来た。	引き続き各部と連携を密接に対応をしていく。	各部と情報交換しながら支援することが出来た。	◎	生徒個々の内面的サポートへの取り組み、尽力に感謝したい。	◎	特別な支援とは具体的にどのようなことであったのか。その結果は？	○		○	○	特別支援とは、極端に教科の学力が低い生徒に対して行う支援で、継続して支援(個人学習会)を行ってきた。その結果、漢字が書ける、字がきれいに書ける、計算が速くできるなど進路実現に向かうことが出来た。継続してサポートをすることの大切さがわかった。
	情報ビジネス	進路実現のための手がかりとしての資格取得をすすめていく。それを家庭に理解してもらうために通信を作成する。	資格試験の要項を各クラスに掲示してもらうなど周知を行い、情報ビジネス科だけでなく普通科の生徒も積極的に受験をし、合格することができた。	周知だけではなく、その後のサポートを密にして、合格率を上げていきたい。	授業前や放課後に補習を行った。結果、電卓検定では受験者全員が合格をすることができた。	○	幅広い人々への、資格取得支援態勢充実のための努力を称えたい。	○		○		○	○	科目を履修している、していないにかかわらず、資格などに興味関心を持つ生徒に対して積極的に支援を行うことができた。「やってみよう」「やればできる(できた)」という気持ちを少しでも持たせることができたのではないかと思う。
	事務室	閉校に向けて関係施設や業者、諸団体との連絡・調整を行い、記念式典が円滑に開催されるよう準備する。また、顕彰スペースや記念碑作成のため関係業者との連絡・調整を行う。	管理職や閉校式委員会、市教委と連携し、閉校に向けての準備が比較的スムーズに進んでいる。	閉校関係の様々な事務処理が一時期に集中するため、漏れや不備がないように注意しながら作業を進める。	閉校に向けての準備を各部署や関係機関と連携しながら行うことができた。	○	幅広い分野にわたる閉校関連業務を見事つつがなく成し遂げられたことに、深甚の感謝と敬意を表したい。	◎		○		○	○	先生方や関係機関、業者との連携を密に取りながら、無事閉校を迎えることができた。4月以降の数ヶ月間、全日制校舎内に設けられた「書庫」および「記念室」で残務処理を行う予定である。
自己評価の総括														
<p>全生徒に充実した学習環境を提供し、豊かな学校生活が送れるように学年、各部署が工夫を凝らし、努力した。年々生徒が減っていく中で充実した行事を実施するのは困難であったが、市の教育委員会や地域住民の方々と連携を取りながら、内容の濃い行事を実施することができた。アンケート結果を見ると全項目とも高い評価を得ている。生徒指導関係の評価が他と比較して低かったが、これは教員数の減少に伴い、立ち番や校内巡回が手薄になったためと考えられる。授業面や特別支援的な取り組み、資格取得など教職員の手厚い指導が成果として現れた1年であったと考える。</p>														
学校関係者評価の総括														
<p>・伊丹市行基町4丁目から池尻7丁目へ移転。以後3年間、「市高だより」60号を超す広報誌並びに「体験活動」、「地域と学校」等を通じて、地域にも定着して、その役割を完璧に終え、発展的に閉校の日を迎えられたこと。この間、学校教職員の方々をはじめ、ご支援、ご尽力された関係各位に深甚の感謝を申し上げたい気持ちで一杯である。</p> <p>・閉校を迎える年度により、少ない生徒数、教職員の皆様も減った中で、学年通信やサマー講座等、諸行事と授業、更には生徒への個別指導、大変お疲れ様でした。感謝申し上げます。閉校への葛藤がある中で、西田校長のリーダーシップにより、教職員一丸となって取り組んでいただいたことが、卒業式での生徒の発言に表れていると感じています。市高がなくなることは寂しい限りですが、この苦しい体験を次の職場でも、また、新たな生徒にも接していただき、ご活躍を祈念いたします。</p>														